第１２号様式（第９条関係）

**山留め工事施工計画書**

年　　月　　日

　建築主事

工事監理者　（　　）級建築士　　　（　　　）登録　第　　　　　　号

（　　）級建築士事務所（　　　）登録　第　　　　　　号

建築士事務所名

　所在地

氏名

担当者氏名

連絡先（電話　　　　　　　　　　　　　　　）

工事施工者　　　　　　建設業の許可　（　　　　）　第　　　　　　号

営業所名

　所在地

氏名

担当者氏名

連絡先（電話　　　　　　　　　　　　　　　）

藤沢市建築基準等に関する規則第９条の規定により、山留め工事施工計画書を提出します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 建築確認番号確認年月日 | 第号　　　　年　　月　　日 | 建築主氏名又は築造主氏名 |  |
| 建築場所又は築造場所 |  |
| 主要用途 |  | 建築面積 | ㎡ | 延べ面積 | ㎡ |
| 最高の高さ | ｍ | 階数 | 地上　　　階地下　　　階 | 構造 | 造 |
| 備考 |  |
| 所長等 | 課長等 | 課長補佐等 | 主査等 | 担　当 | 起案 | 決裁 |
|  |  |  |  |  | 意見等 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 山留め工事の着手予定日 | 　　　　年　　月　　日 | 山留めの存置期間 | 　　　　年　　月　　日～　　　　年　　月　　日 |
| 根切り高さ | ＧＬ－　　　ｍ　　～　　　　　ｍ |
| 労働安全衛生規則第３５９条の規定に基づく地山の掘削作業主任者 | 氏名 |  |
| 修了証番号 |  |
| 労働安全衛生規則第３７４条の規定に基づく土止め支保工作業主任者 | 氏名 |  |
| 修了証番号 |  |
| 山留め壁の種類 | 山留め工法の種類 |
| [ ] 親杭横矢板[ ] 鋼矢板（シートパイル）[ ] ソイルセメント柱列壁[ ] 連続地中壁[ ] その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | [ ] 山留め壁自立工法[ ] 法付オープンカット工法[ ] 水平切りばり工法（　　　　段）[ ] アースアンカー工法（隣地承諾 済・未済/隣地に設置なし）[ ] その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 排 水 工 法 の 種 類 | 親 杭 ・ 矢 板 の 施 工 方 法 |
| [ ] 釜場工法[ ] ディープウェル工法[ ] ウェルポイント工法[ ] その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | [ ] 圧入工法[ ] 振動工法[ ] その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 危害の防止（該当する□にチェックを入れてください。）[ ] 地下埋設物（ガス管、水道管等）の損壊による危害の発生を防止するための措置を講じている。[ ] 地盤調査を行い、地層及び地下水の状況に応じた施工図を作成した後、施工する計画となっている。[ ] 建築物、工作物、崖、道路に近接して掘削を行う場合は現況調査を行い、危害防止措置を講じている。[ ] 杭、鋼矢板等の根入れ長は、安定計算、支持力の計算、ボイリング、ヒービングの計算等により、周辺地盤の安全を保持するための相当な深さとしている。[ ] 山留めの主要な部分（切ばり、矢板、腹起し等）について、構造計算等により土圧に対する安全性を確認している。[ ] 山留め工事及び法面処理を施している間は必要に応じて点検を行い、異常を早期に発見すると共に、山留めを補強し、排水を行う等の安全な状態に維持するための措置を講じている。[ ] 山留め・当該工法について十分に検討し、土質、地下水位等に応じた適切な工法等を選定している。[ ] 法付オープンカット工法の場合、切取り面の土質に見合った勾配を保った掘削を計画している。 |

（注意）

1. 山留め工事施工計画書には、下記の図書を添付してください。
2. 案内図
3. 山留め平面図（敷地境界線、隣地高低差、建物の通り芯と山留め壁の位置関係、周辺敷地の状況（隣地建物の位置・規模・構造、道路、鉄道等）、乗り入れ構台の位置、仮設設備の位置、施工機械の設置位置、搬入経路、道路上工作物等の位置を記載）
4. 断面図（根切り高さ、隣地高低差（崖がある場合は崖の角度・高さ）、根入れ長さ、隣地建物の基礎形式・基礎位置を記載）
5. 山留め工事工程表
6. 観察点検管理及び計測管理計画
7. その他状況に応じて建築主事が指定するもの
8. 申請に係る建築物が複数の場合は、本計画の対象となる建築物が分かるよう備考欄に記載してください。
9. 計画に変更が生じた場合には計画変更の概要を備考欄に記載し、再度山留め工事施工計画概要書の提出をしてください。